

HAIGE

芝刈り機

取扱説明書

HG-KCL116S

HG-KCL316



もくじ

はじめに	2	ご使用の前に
安全にお使いいただくために	3	
安全ラベル	6	
主要諸元	8	
各部の名称	9	
組立	10	
運転前の点検	13	使い方
運転操作のしかた	19	
点検・整備のしかた	22	点検の仕方
長期間使用しないとき	28	
故障と思ったら	29	
お客様ご相談窓口	30	

はじめに

このたびは芝刈り機をお買いあげいただき誠にありがとうございます。安全に正しくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。

安全上のご注意

※お使いになる人や他の人への危害・財産への損害を未然に防ぐため、必ずお守りいただくことを説明しています。

※誤った取扱をした場合に生じる危険とその程度を次の区分で説明しています。

- 表示と意味をよく理解してから、本文をお読みください。
- お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見ることができる所に、必ず保管してください。
- すべて安全に関する内容です、必ずお守りください。



警告

誤った取扱をしたときに、死亡や重傷に結びつく可能性のあるもの。



注意

誤った取扱をしたときに、軽傷または家屋・財産などの損害に結びつくもの。



取扱においてその行為を禁止します。



指示に基づく行為を強制します。

製品を長くご愛顧いただくために

取扱説明書に従った正しい取扱や定期点検、保守を行ってください。

注意事項に従わず何らかの損害・故障が発生した場合、保証の対象外となりますのでご注意ください。

安全にお使いいただくために

芝刈り機に係る安全事項



警告



- ・エンジンが熱いうちは、給油しないでください。
- ・燃料が漏れたり、こぼれたままエンジンをかけないでください。
- ・運転時、給油時、喫煙など火気を発生させないでください。
- ・換気の悪い場所ではエンジンをかけないでください。
- ・回転している部分の近くに手又は足を入れしないでください。
- ・エンジン回転中及び停止後しばらくの間はエンジンやマフラーなどが熱くなっています。触れるとやけどすることがありますので注意してください。
- ・改造、分解は絶対行わないでください。安全性・信頼性が低下したり故障の原因になります。また、当社の保証サービスは一切受けられなくなります。
- ・指定された用途以外には使用しないでください。
- ・正しい操作を知らない人、子供、妊娠中の方には操作をさせないでください。
- ・未成年者の単独使用は禁止です。監督下で作業してください。
- ・または、操作のしかたをよく分からない成年者でも独自の使用はご遠慮ください。



- ・ご使用前にこの説明書をお読みになり取扱の注意事項をよくご理解の上ご使用ください。
- ・バーナイフは確実に取り付けてください。
- ・運転中は、排気ガスに十分注意してください。
- ・燃料を補給するときは必ずエンジンを停止して、屋外の換気の良い場所で行って下さい。
- ・燃料をこぼさないように注意してください。 所定のレベルを超えて補給しないでください。
- ・燃料がこぼれた場合は、直ちにふき取ってください。
- ・燃料キャップは確実に締めてください。
- ・エンジンを始動するときは、周囲に人や動物がいないことを確認してください。
- ・始動前点検を実施してください。
- ・製品を搬送の際、積み込み、積み下ろしは二人で行ってください。
- ・移動するときは、バーナイフの回転を止めてください。

安全にお使いいただくために

芝刈り機の作業に係る安全事項



警告



- ・身体の調子が悪いとき、判断力に影響するような酒類、薬物を服用して使用しないでください。
- ・Vベルトなど回転部分に顔や手足を近づけないでください。
- ・ご使用時は、子ども、動物、ペットを近づけないようご注意ください。
- ・夜間、悪天候時、霧の発生時など、視界が良くないときは使用しないでください。
- ・足元が滑りやすい、転倒しやすい場所では使用しないでください。
- ・燃料タンク内に燃料を入れたまま運搬、保管しないでください。
- ・土や砂利道の上でバーナイフを回転させないでください。
- ・集草袋をつけないで作業しないでください。
- ・エンジン回転中は、刈り取り高さ調節はしないで下さい。
- ・ハンドルをしっかり握り、正しい姿勢で作業をしてください。走るような操作はしないでください。



- ・装置から離れるときは、必ずエンジンを停止してください。
- ・危険を感じたり、予測される場合も、必ずエンジンをすぐに停止してください。
- ・事前に、作業範囲内の石、木片などの異物を取り除いてください。
- ・作業前に集草袋に穴や擦り切れがないか点検してください。
- ・作業中に異物に当たったり、異物が巻きついた場合には、速やかにエンジンを停止し、回転部が完全に停止してから異物を除去し、バーナイフに異常がないか調べてください。異常があった場合には、完全に補修した後でなければ装置を再始動しないでください。

安全にお使いいただくために

芝刈り機に係る安全事項



注意



・指定された用途以外には使用しないでください。



・燃料はレギュラーガソリンを使って下さい。

・長期保管する場合は、燃料タンクの燃料を抜き取り、火気のないところに保管してください。

- ・給油中、燃料タンク内に雪や水が入らないように注意してください。
- ・部品交換は、純正部品を使用してください。
- ・装置をご使用になる前に、エンジンの始動、停止の仕方を覚えてください。
- ・定期点検整備を行ってください。
- ・子供の手の届かない安全な場所に保管して下さい。

芝刈り機の作業に係る安全事項



注意



・機械の稼働部分に絡まるような衣服は着用しないでください。

・エンジンがかかっている状態で本製品から離れないでください。

・ぬれた草を刈らないで下さい。



・すべりにくい靴、手袋、防塵マスクなどの作業に適した服装を心掛けてください。

・装置を長時間保管するときは、取扱説明書にしたがって保管してください。

安全ラベル

物が飛び出します 人や動物を近づけないで下さい。

修理の時は、点火プラグキャップを外してください。

排気ガスに注意、換気の悪い場所でエンジンをかけないでください。

騒音に注意してください。



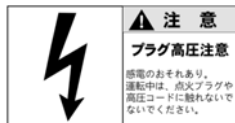
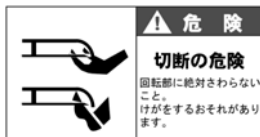
エンジンやマフラーなどが熱くなっています。

回転しているバーナイフにふれると死傷することがあります。

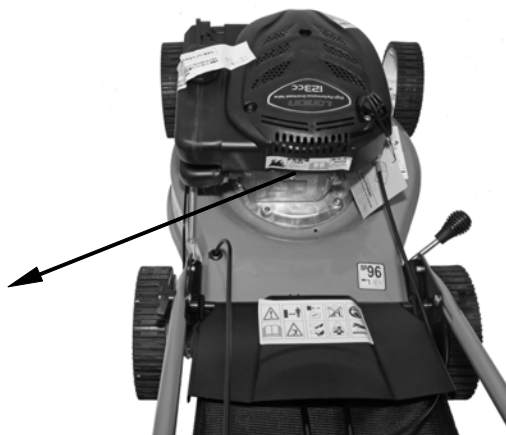
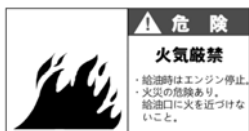
ご使用前に取扱説明書をよく読んで下さい。



安全ラベル



手や足を近づけないでください。
回転しているバーナイフにふれると死傷することがあります。

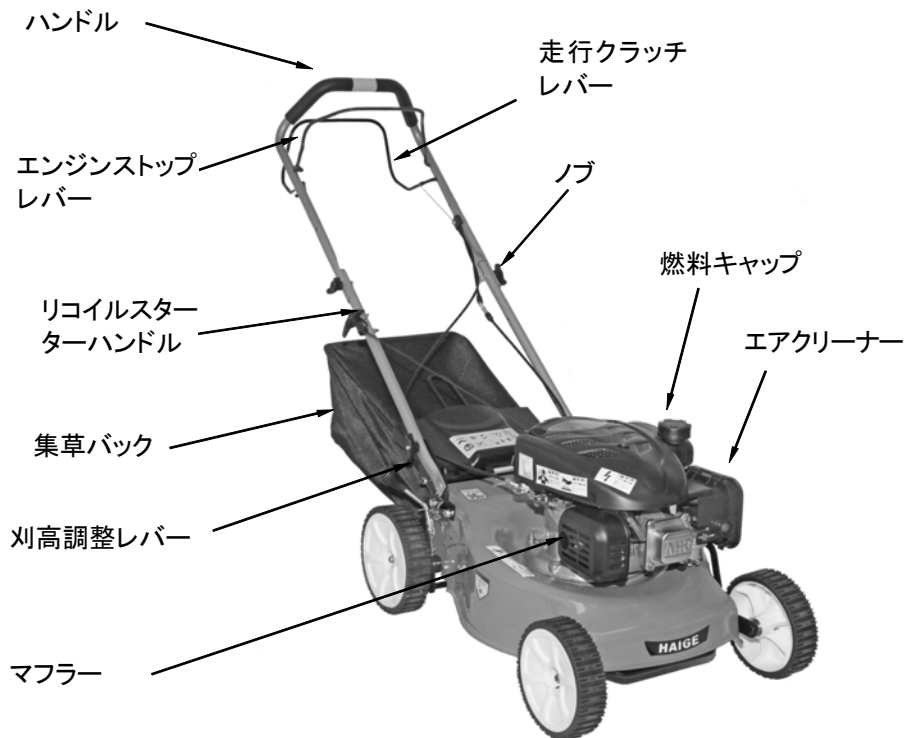


主要諸元

モデル名	HG-KCL 316	HG-KCL 116S
型式	空冷4サイクル	
総排気量	123cc	
操作	手押し	自走
刈高	5段階調整 15～65mm	
刈幅	410mm	
排出方式	収納	
質量	22kg	

この仕様諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

各部の名称



HG-KCL116S

組立

●梱包部品一覧表

念のため、各パーツが不足していないかのご確認をお願いいたします。
不足している場合は、お手数ですがハイガー産業株式会社までご連絡ください。

集草バック



注意

- ・説明書をよく読んで正しく取り付けてください。
- ・作業には工具を使用します。必ず用途やサイズの合ったものを使用し自身や周囲の確認をしながら安全に作業を行って下さい。

組立

●ハンドルの取付け

下ハンドルを本体に固定し、下ハンドルに上ハンドルを取付けます。

■組立手順

1. 下ハンドルにある固定ピンを本体にある固定穴に差し込みます。
2. 下ハンドルのノブを手で回し、下ハンドルをしっかりと固定します。
3. 反対側の下ハンドルも同様に固定します。
4. 上ハンドルに仮止めしているノブ、取付けボルト、保護カバーを外します。
5. 上ハンドルの持ち手部分が上を向くように、上ハンドルの取付け穴が、下ハンドルの取付け穴と一致するように、合わせます。
6. 取付けボルトを内側から外側に通し、ノブを手で回して、上ハンドルをしっかりと固定します。反対側も同じ要領で固定します。
7. リコイルスターターノブを上ハンドルにあるストッパーに引っ掛けます。



下ハンドルにある固定ピンを本体にある固定穴に差し込みます

上ハンドルの持ち手部分が上を向くように取り付ける



リコイル
スター
ターノブ

組立

●集草バックの取付け

集草バックを本体に取り付けます。

■取付け手順

- 1.本機の放出カバーを開けます。
- 2.集草バックのフレームにある爪を放出カバーシャフトにひっかけます。



運転前の点検

●燃料の点検・補充



警告



- ・エンジンが熱いうちは、給油しないでください。
- ・燃料が漏れたり、こぼれたままエンジンをかけないでください。
- ・運転時、給油時、喫煙など火気を発生させない。



- ・燃料を補給するときは必ずエンジンを停止して、屋外の換気の良い場所で行って下さい。
- ・燃料をこぼさないように注意してください。 所定のレベルを超えて補給しないでください。
- ・燃料がこぼれた場合は、直ちにふき取ってください。
- ・燃料は、無鉛レギュラーガソリンを使用してください。
- ・燃料キャップは確実に締めてください
- ・長期保管する場合は、燃料タンクの燃料を抜き取り、火気のないところに保管してください。
- ・給油中、燃料タンク内に雪や水が入らないように注意してください。

燃料(無鉛ガソリン)の量を点検します。

燃料タンクキャップ

■点検手順

- 1.燃料タンクキャップを外し、液面を見て残量を確認します。
- 2.少ないときは上限の位置まで補給してください。

使用燃料 自動車用無鉛ガソリン (レギュラーガソリン)

補給後、給油キャップを確実に閉めてください。



運転前の点検

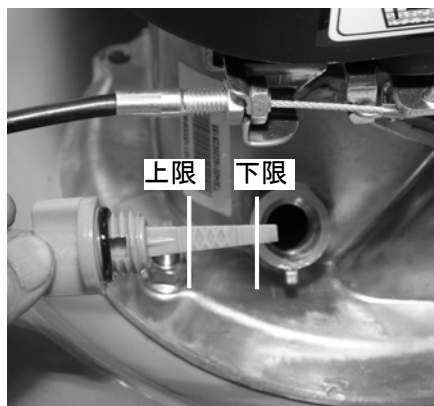
●エンジンオイルの点検

エンジンオイルの量、よごれを確認します。

■点検手順

- 1.車体を水平な場所に移動させます。
- 2.オイル給油キャップを外します。
- 3.オイルゲージのオイル量範囲にあるか点検してください。
- 4.オイル量が少ないときは、新しいオイルを、上限位置を超えないように、補給してください。
- 5.オイル給油キャップを締めます。

推奨オイル SAE 10W-30
オイル容量 0.55L



⚠ 注意

エンジンオイルの量は適切な値に保ってください。エンジンの故障の原因になります。上限を超えるとエンジンがかかなくなります。少ないと、エンジンの焼き付けを起こします。

運転前の点検

●エアクリーナーの点検

エアクリーナーの汚れを点検します。

■点検手順

- 1.エアクリーナーカバー取付けつめを押さえ、エアクリーナーカバーを外します。
- 2.汚れがひどい場合はスポンジを水洗いし、十分かわかしてから取り付けます。
- 3.取り外した逆の手順で組立てください。



汚れがひどい場合はスポンジを水洗いしてください

●バーナイフ、バーナイフ締付けボルトの点検

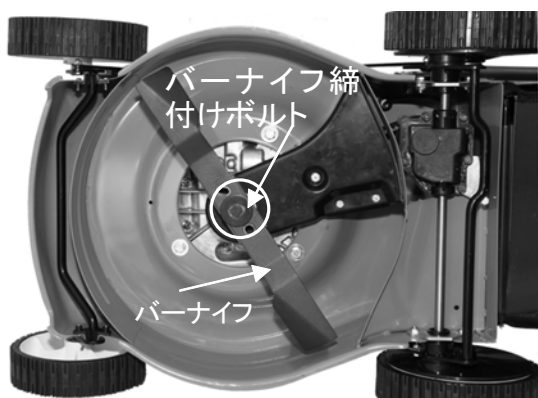
バーナイフに、割れ、曲がり、磨耗など異常がないか確認します。

■バーナイフの点検手順

- 1.燃料タンクから燃料を抜きます。
- 2.本機を傾けます。
- 3.バーナイフを目視し、割れ、曲がり、磨耗など異常があれば新品と交換してください。

■バーナイフ締付けボルトの点検

- 1.バーナイフが回らないように固定して、バーナイフ取り付けボルトを右方向へ締めます。



運転前の点検

●集草バッグの点検

放出物が集草バックの外に飛び出さないか点検します。

■点検手順

- 1.集草バッグを空にしてください。
- 2.破れ、ほころびなどが無いことを確認してください。
- 3.集草バッグが確実にセットされていることを確認してください。



集草バッグ

●エンジンプップレバーの点検

エンジンプップレバーの動作を確認してください。

■確認手順

- 1.エンジンプップレバーを握ったり、放したりの動作を数回繰り返します。
- 2.レバー操作に合わせて、ワイヤーが動作することを確認してください。
- 3.レバーを離した際、レバーが確実に戻ることを確認してください。

エンジンプップレバー



運転前の点検

警告



- ・燃料を補給した場所でエンジンを始動しないでください。
- ・換気の悪い場所ではエンジンをかけないでください。
- ・エンジン回転中及び停止後しばらくの間はエンジンやマフラーなどが熱くなっています。触れるとやけどすることがありますので高温部に触れないでください。

- ・回転している部分の近くに手又は足を入れないでください。



- ・エンジン始動時、ハンドルをしっかり握ってエンジンを始動してください。
- ・運転中は必ず両手でしっかりハンドルを握ってください。
- ・平坦な場所で作業を行ってください。
- ・エンジン始動後、異常を感じたり、予測される場合はすぐにエンジンを停止してください。
- ・装置から離れるときは必ずエンジンを停止してください。
- ・少しの移動でもエンジンを停止してください。

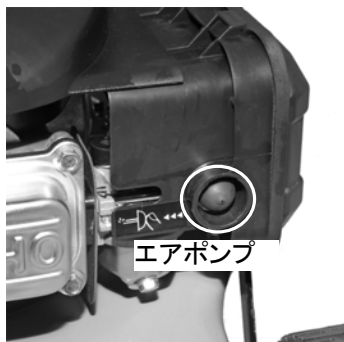
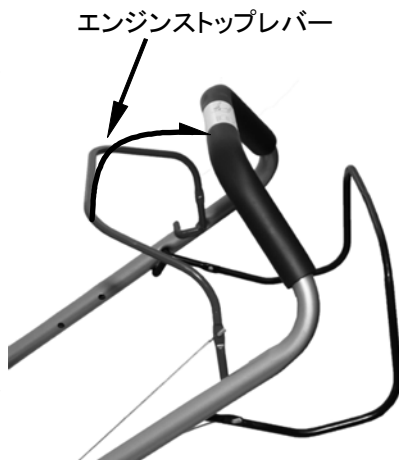
注意

- ・エンジンを始動するときは、周囲に人や動物がいないことを確認してください。必ず両手でしっかり本体を保持してください。

運転前の点検

●エンジンのかけ方

- 1.ハンドルにあるエンジンストップレバーを握ります。
- 2.エンジンが冷えている場合は、エアポンプを2～3回押下します。
- 3.リコイルハンドルを少し重くなるまでゆっくり引き、そこから勢いよく真つすぐ引張ります。エンジンがかかるまで、数回繰り返します。ロープを最後まで引張らないでください。引いたリコイルハンドルを途中で放さないで、ゆっくり戻してください。
- 4.エンジンを起動後、暖気運転を行い、運転状況を確認します。
- 5.エンジンが掛かるとブレードも回転します。



●エンジンの止め方

- 1.ハンドルにあるエンジンストップレバーを離します。
- 2.エンジンが停止し、ブレードも停止します。

運転操作のしかた

●刈り高さの調節

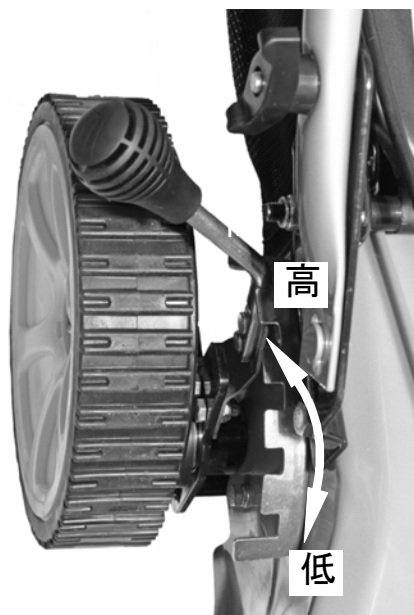
刈り高さは、刈り高さ調節レバーで高さの調整が可能です。

■調整方法

刈り高さ調節レバーをタイヤ側に引き、適切な調節溝に入れてください。

18mm～65mmまで5段階

芝地の条件により、刈り取り高さは多少変化する場合があります。



運転操作のしかた

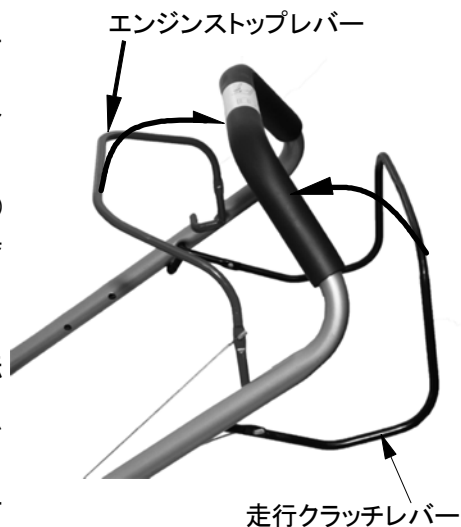
●芝刈り作業

自走で芝を刈る方法と手押しで刈り取る方法があります。

(HG-KCL316は手押しで刈り取る方法のみです)

■自走による刈り取り作業(HG-KCL116S)

- 1.作業範囲にある石、木片、空き缶など異物を取り除きます。
- 2.集草バックを取り付けます。
- 3.エンジンを始動します。
- 4.エンジンが回転すると、バーナイフも回転します。
- 5.走行クラッチレバーを握ると、自走を開始し、芝刈りを行います。
- 6.走行クラッチレバーを放すと、走行は止まります。



■手押しによる刈り取り作業

- 1.作業範囲にある石、木片、空き缶など異物を取り除きます。
- 2.集草バックを取り付けます。
- 3.エンジンを始動します。
- 4.エンジンが回転すると、バーナイフも回転します。
- 5.手でハンドルを押して、芝刈りを行います。
- 6.自走式でも、走行クラッチレバーを握らず、ハンドルを手で押して芝刈りを行うことができます。

■斜面の芝刈り

- ・傾斜地での芝刈り作業は、上下方向ではなく、横方向に行ってください。
- ・横方向で作業する場合でも、本機が約10度以上傾く場合は危険ですので、使用しないでください。
- ・傾斜地の方向が変わった場合は、特に注意を払ってください。

■起伏の多いところでの芝刈り

- ・起伏の多いところでの芝刈り作業は、ハンドルをしっかりと握り、足元に十分注意して作業を行ってください。

運転操作のしかた

●運搬、輸送について

本機を運搬するときは、次のことに注意してください。

警告



- ・運搬時は必ずエンジンを停止してください。
- ・重量物の運搬は、2人以上で行ってください。
- ・運搬する場合は、燃料もれによる火災を防止するため、燃料タンク、キャブレタからガソリンを抜き取ってください。
- ・エンジン回転中及び停止後しばらくの間はエンジンやマフラーなどが熱くなっています。触れるとやけどすることがありますので注意してください。

注意



- ・運搬中に本体が動かないように、ロープなどでしっかり固定してください。
- ・本体を水平になるように保持してください。

点検整備の仕方

お買い求めいただきました製品を安全にご使用いただくために、定期的に点検を実施してください。

点 検 項 目	実施時期
燃 料 の 点 検	作業前
エンジンオイルの点検	作業前
起振体オイルの点検	作業前
エアクリーナーの点検	作業前
エンジンオイルの交換	初回20時間 以降100時間毎
点火プラグの点検・清掃	点検50時間 交換250時間毎
各部のネジの緩み点検	作業前
燃料系の点検・メンテナンス	長期保存の前

ご自身で点検、修理ができない場合は、ハイガー産業までご相談ください。



警告

- ・安全を確保し作業を行って下さい。
- ・作業中にエンジンを始動するようなことは絶対にやめて下さい。また周囲に子供や動物が近づかないよう配慮をお願い致します。
- ・エンジン回転中及び停止後しばらくの間はエンジンやマフラーなどが熱くなっています。触れるとやけどすることがありますので注意してください。



注意

- ・作業には工具を使用することがあります。必ず用途やサイズの合ったものを使用し自身や周囲の確認をしながら安全に作業を行って下さい
- ・メンテナンス終了後は汚れが付着しない場所かカバーなどをかぶせて保管ください。

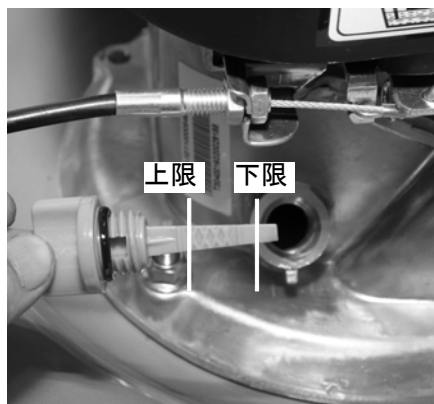
点検整備の仕方

●エンジンオイルの交換

エンジンオイルの交換を行います。

■交換の仕方

- 1.製品を水平な場所で水平な状態にします。
- 2.排オイルを受ける容器を準備してください。
- 3.燃料タンクから燃料を抜きます。
- 4.オイル給油キャップを取り外します。
- 5.マフラーがある側を下側にし、本体を横に倒します。
- 6.オイル給油口から、オイル受けにオイルを排出します。
- 7.製品を水平に戻します。
- 8.新しいエンジンオイルをオイルゲージのオイル量範囲の位置まで入れます。
- 9.注入後、オイル給油キャップを締めます。



推奨オイル SAE 10W-30
オイル容量 0.55L

⚠ 注意

エンジンオイルの量は適切な値に保ってください。エンジンの故障の原因になります。上限を超えるとエンジンがかからなくなります。少ないと、エンジンの焼き付けを起こします。

点検整備の仕方

●バーナイフの交換

バーナイフの交換を行います。

■交換手順

1.使用工具

14mmスパナ

2.燃料タンクから燃料を抜きます。

3.マフラーを上にして本体を傾けます。

4.バーナイフが回転するのを防ぐ為、木片をバーナイフとハウジングの間に挟みます。

5.バーナイフを固定しているボルトを反時計回りに回すと、バーナイフが取り外せます。

6.新しいバーナイフをバーナイフ台座に合わせ、ボルトでしっかり取り付けます。

この際、バーナイフが回転するのを防ぐ為、木片をバーナイフとハウジングの間に挟みます。



●エアクリーナーの清掃

エアクリーナーのフィルタを清掃します。

清掃手順

1.エアクリーナーカバー取り付けつめを押さえ、エアクリーナーカバーを外します。

2.スポンジをケースから取り出し、中性洗剤をうすめたぬるま湯で洗い、十分かわかしてから取り付けます。

3.取り外した逆の手順で組立ててください。



点検整備の仕方

●ケーブルの調整

走行ケーブルを調整します。

調整手順

1. ナットを緩めます。
2. 写真に示すケーブルアジャスタを1回転回します。芝刈り機を操作して走行状態を点検します。
3. 走行クラッチが滑っている場合、ケーブルアジャスタを右にもう一回転し走行状態を点検します。
4. 走行クラッチが滑らなくなるまで、調整とテストを繰り返します。
5. 走行クラッチが切れない場合は、アジャスタを左に回転し、調整します。
6. 調整終了後、ナットを締めてアジャスタを固定します。



点検整備の仕方

● 点火プラグの点検・清掃

点火プラグを外し、電極の点検・清掃を行います。

■ 点検のしかた

1. 使用工具

プラグレンチ、ワイヤブラシ

2. 点火プラグキャップを取り外します。

3. 点火プラグを取り外します。

4. 点火プラグをワイヤブラシで清掃します。

5. 隙間は0.7mm～0.8mmが適切です。



点検整備の仕方

●燃料系の点検・メンテナンス

燃料タンクのカソリン、キャブレターのガソリンを抜きます。

ガソリンを受ける容器を用意してください。

■点検の仕方

1.使用工具

プラスドライバー

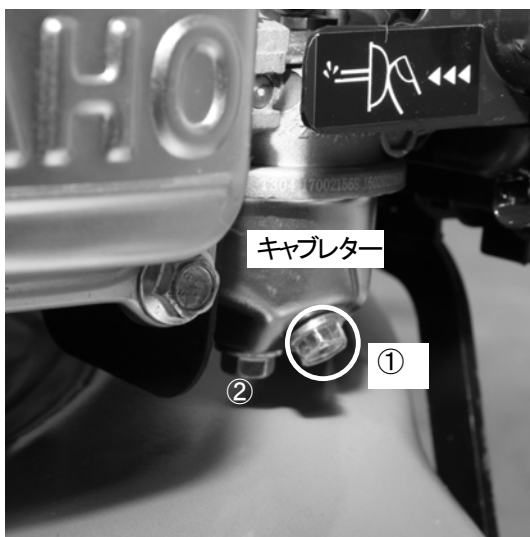
10mmスパナ

2.燃料タンクのキャップを外し、タンク内の燃料を抜きます。

3.キャブレターに斜めについているボルト(+の溝があります)①を緩めて、ガソリンを容器にうけます。この方法でキャブレターの燃料を抜くことができます。

キャブレターの下側に付いている②のボルトは絶対に緩めないで下さい。

4.緩めたボルトは、必ずしっかり締めて下さい。



長期間使用しないとき

シーズンが終わりましたら、次の手入れを行い、保管してください

- 1.燃料タンク、キャブレターの燃料を抜きます。
- 2.ハウジングの中を清掃します。
- 3.集草バッグ内の草を取り除きます。
- 4.各部ボルトの破損、腐食、緩みの点検をします。
- 5.防錆、給油を行います。

警告

- ・安全を確保し作業を行って下さい。
- ・作業中にエンジンを始動するようなことは絶対にやめて下さい。また周囲に子供や動物が近づかないよう配慮をお願い致します。
- ・エンジン回転中及び停止後しばらくの間はエンジンやマフラーなどが熱くなっています。触れるとやけどすることがありますので注意してください。

注意

- ・作業には工具を使用することがあります。必ず用途やサイズの合ったものを使用し自身や周囲の確認をしながら安全に作業を行って下さい
- ・メンテナンス終了後は汚れが付着しない場所かカバーなどをかぶせて保管ください。

故障と思ったら

●エンジンがかからない

点火プラグに火花が出ていない	①始動スイッチボタンの不良 ②スパーク・プラグ不良 ③スパーク・プラグ・キャップ接続不良 ④イグニッションコイルの不良	交換 交換 調整 交換
キャブレターに燃料が来ていない	①燃料がはいっていない ②燃料コックが閉じている ③燃料ホースの詰まり、漏れ ④燃料タンク錆びまたは、異物混入による詰まり	燃料を入れる コックを開く ホース清掃、交換 交換、フィルタ清掃
エンジン内に燃料が来ていない	①キャブレター詰まり(ニードル・バルブ膠着)	キャブレター分解掃除

●過度の振動

本体が振動する	①バーナイフのバランスがとれていない ②バーナイフ取付けボルトが緩んでいる	新品のバーナイフに交換 ボルトを確実に締めなおす
---------	--	-----------------------------

●うまく刈り取りができない

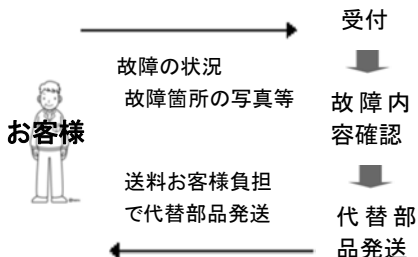
芝生が放出されない	①バーナイフの刃先が極端に摩耗している	新品のバーナイフに交換
芝生がかれない	①刈り取り高さが合っていない ②集草バッグが目詰まり、いっぱいになっている ③芝が濡れている	適切な高さにしてください 清掃してください 芝生が乾いているときに作業

お客様ご相談窓口

まず、「故障と思ったら」を参考に、ご自身で点検してください。

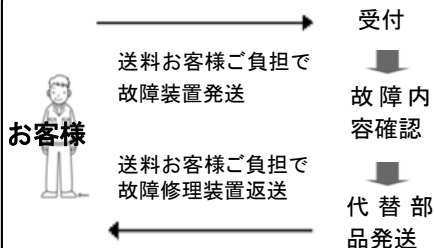
●故障部品をお客様で交換される場合

保証期間内は消耗品を除き壊れた部品は当社で保証します。
送料は全てお客様のご負担となります。



●故障品をメーカーで修理する場合

保証期間内の本体修理も無料で承ります。
その際に生じる往復の送料はお客様のご負担となります。



修理、部品に関するご相談

修理、部品を依頼される時は下記の事項をご連絡ください。

- ① 故障の状況
- ② 型式
- ③ ご購入サイト、年月日
- ④ お名前、ご住所、電話番号

修理 使い方などのご連絡窓口

お問い合わせ窓口

TEL 0276-55-2275

FAX 0276-55-2276

メール support@haige.jp

住所 〒370-0503 群馬県邑楽郡千代田町赤岩3072-3

MEMO

Hi Δ IGE

ハイガー産業株式会社